

武蔵村山市のみどりに関するアンケート調査概要

- 1.調査目的：武蔵村山市では、緑豊かなまちづくりを目指して、公園の整備、緑地の保全、まちなかの緑化などを進めており、市民の皆様が今後のみどりに関する環境づくりや緑についてどのように感じているかを把握するために「武蔵村山市のみどりに関するアンケート調査」を実施した。
- 2.調査対象：20歳以上の武蔵村山市在住の市民を対象に、各地区人口、男女別、年齢層別に按分して対象数を出し、無作為に1500名を抽出した。
- 3.調査方法：上記1500名へアンケート調査票を郵送し、回収方法としては同封した返信用封筒にて郵送回収した。
- 4.調査期間：平成23年10月1日（土）投函 平成23年11月4日（金）締め切り（当初締め切りを上記の11月4日に設定したが返信が続くため、回収率アップのため11月30日（水）まで延期）
- 5.回収状況：調査票配布数1500件 有効回答数 604件 有効回収率 40.3%
（平成元年6月実施の「みどりに関する市民意識アンケート調査」では、配布数1500件、有効回答数598件、有効回収率39.9%）

以下の概要表において、パーセンテージは小数点以下を四捨五入している。設問、選択肢項目は省略して表示しており詳細は本編を参照されたい。年代別は傾向の違いが予想される設問や年代別傾向を知ることによって施策に影響すると思われる設問等について記述した。また、アンケートの結果を踏まえてこれからどのように活かしていくかを施策への反映（案）として示した。

設問番号	設問概要	全体回答概要	地区別概要	年代別概要	施策への反映(案)
1	回答者の性別	女性が過半数である。			
2	回答者の年代	60、70歳代がそれぞれ20%を超えている。			
3	回答者の居住年数	30年以上がほぼ半数を占める。			
4	回答者の居住地	配布数の関係もあるが、大南、緑が丘が10%を超え、他の地区は5%前後である。			
5	快適な環境とは？	「緑の豊かさ」24%、「ゴミのない清潔さ」21%、「空気のさわやかさ」18%が上位を占める。みどりに関係する項目が多く選択されている。	中原を除いて上位の傾向は変わらない。中原は「街並みや風景の美しさ」が1位である。		「快適な環境」「みどりの必要性」及び「必要の理由」の結果から、市民の求める快適な環境はみどりの持つ多様な機能、効果なくしては成り立たないことを市民は感じ、みどりの必要性を強く認識している。
6	みどりは必要かどうか？	「必要である」76%、「あった方がよい」19%で、合わせて95%を占める。	全地区で順位は変わらない。		みどりの保全、創出、及びそれらを展開するための仕組みづくり等の施策を策定する上での基本的スタンスとして、この結果は総論的側面で重要な柱となる。
7	みどりの必要性の理由は？	「安らぎ」28%、「眺めの美しさ」18%、「空気の浄化」16%、「散歩」13%が上位を占める。精神的、視覚的、生物・化学的など多様な効果・機能が認識されている。	全地区で上位項目の傾向は変わらない。		
8	みどりに恵まれた市か？	「恵まれている」67%、「とても恵まれている」20%で、合わせて87%を占める。	全地区で順位は変わらない。		市民は「みどりに恵まれた市である。」という認識が高い。
9	市内で緑の少ない場所？	「工場や会社」22%、次いで「戸建住宅」15%、「道路」14%、「住宅団地」12%、「公共施設」12%で、官民一体の緑化推進が望まれている。	全地区で「工場や会社」が1位である。伊奈平（30%）、中原（26%）が高い。 「戸建住宅」は伊奈平、残堀、神明が高くそれぞれ18%である。 「道路」は中央が19%で他の地区より高い。		「少ないみどりの場所」では地区における背景状況を反映しており、きめ細かい施策を立てる時点で反映させると共に、官民一体の緑化推進をしていく必要がある。

設問番号	設問概要	全体回答概要	地区別概要	年代別概要	施策への反映(案)
10	みどりは3~4年前に比べて増えたか減ったか?	「変わらない」36%、次いで「やや減っている」28%、「かなり減っている」21%の順になっており、50%が減っていると感じている。「増えている」と感じている比率は7%と低い	全地区で上位項目の順位に変動があるものの「減っている」と感じている比率は高い。 「変わらない」が「やや減っている」または「かなり減っている」を下回った地区は学園、伊奈平、残堀、神明、中藤、中央で、特に中央は「やや減っている」が60%になっている。 「かなり減っている」が高い地区は伊奈平(38%)、神明(36%)である。		「緑量の経年的変化」では減っていると感じており、市域全体でというよりも身近な緑地景観の喪失(平地林の減少や農地の宅地化)がそのような結果を出させていると思われる。市民の目線に対応した、身近な緑地の保全、活用、きめ細かなみどりの創出が必要となる。
11	市内で自然的景観、緑化環境が優れている場所は?	「狭山丘陵」が50%占めている。次いで「公園」13%、「自転車道」13%、「特になし」6%である。	「狭山丘陵」は全地区で支持されているが、緑が丘は「公園」(31%)が「狭山丘陵」(32%)に迫っている。 「公園」は市の南東部の地区(緑が丘、大南、学園)で高く、「自転車道」は市の北部の地区(本町、中藤、三ツ木、中原、岸)で高い。「特になし」は南部、西部の地区(残堀、榎、伊奈平、)が高い。		「みどりが優れた場所」で支持の高い狭山丘陵であるが、そのみどりは市域だけでなく広域レベルで重要な位置づけであり、その保全活用を積極的に行なっていく必要がある。 狭山丘陵以外では地区によって異なっており、地区の個性や特色を重視していく必要がある。 狭山丘陵が突出しており、場所が限定されてしまっており、拠点として分散するような場所作りが望まれる
12	今後、残しておきたいみどりは?	「公園」27%、「道路」14%、「川」13%、「公共施設」11%の順で、インフラ整備に関する項目が多い。	緑が丘を除いて、上位の4項目の地区での順位変動はあるが、この項目以外には入っていない。(緑が丘は2位に「住宅団地」が入っている。) 「公園」は全地区の中で10地区が1位になっており、特に学園、大南が30%以上を示している。「道路」は中原、本町で高く、「川」は残堀が高い。 順位は高くはないが、「平地林」は伊奈平、大南、「農耕地」は中央、神明、本町、「社寺林」残堀、中藤、榎、本町が10%前後を示している。	「公園」が全世代で1位である。「公園」は20、30歳代では30%を超えているが、80歳代では19%と低くなっている。 2位、3位は80歳代を除けば「道路」、「河川」が入っているが、80歳代では2位に住宅団地(16%)が入り、3位が道路(13%)となり他の世代とは違った傾向を見せる。 「平地林」は50歳代では12%であるが、80歳代では2%で、他の世代では4~7%前後である	今後残したいみどりとして「公園」のみどりを地域、世代とも上位に挙げており、公園の担う役割は高い。しかし他のインフラ整備に伴うみどりの保全も市民は重視しており、住民の意見等を取り入れてインフラ整備を進めていくと共に、「みどり=公園」ではなく、みどりが幅広い施策の中で扱われ、保全、活用のためには他の関連部署との緊密な連携を図る必要がある。
13	家で緑化をてがけているか?	「庭・生垣」が56%を占め、戸建住宅の多いことが影響している。次いで、「場所がない」18%、「ベランダ」12%で、「室内の鉢植え」7%、「したくない」3%である。	住居形態が住宅団地で構成されている緑が丘を除いたすべての地区で「庭・生垣」が1位である。 緑が丘では「ベランダ」(41%)、「場所がない」(38%)が高い。「したくない」は中藤以外の地区では10%に満たないが、中藤では18%と高く2位になっている。		市民の日常の緑化意欲は高いといえる。きっかけや後押し等の支援があればさらに民有地の緑化が向上する可能性はある。
14	新たな公園ができるとしたら、どのような公園がいいか?	「芝生・花壇」27%、「水辺」20%、「樹林」17%の順で、公園に明るさ、彩り、親水などを、自然指向を求めている。	「水辺」が1位の神明を除いて、すべての地区で「芝生・花壇」(22~34%)が1位で、「水辺」(14~27%)、「樹林」(11~25%)は2位または3位が多い。 「水辺」で最も高い地区は空堀川が流れる神明(23%)である。「スポーツ」は中央が14%で他の地区より高い	「野外活動」が20歳代で3位(13%)、30歳代で1位(18%)である。 「遊具」が子育て世代の30歳代14%で高く、「文化施設」は80歳代の11%が高い。 各世代下位ではさまざまな要望があるが1位は「芝生・花壇」である。	「新たな公園」に対する要望は全体的には「芝生・花壇」「水辺」「樹林」など自然指向が高いが、地域別、年代別で変わってきている。地区や利用者層のニーズを反映した公園づくりを検討する必要がある。
15	道路、歩道の緑化で、どんなみどりのある道がよいか?	「ベンチ・日陰」28%、「四季の花」24%、「並木道」23%、「安全性」18%の順であるが、上位3項目はいずれも僅差であり、花などがあって憩える空間が望まれている。	上位3項目は大部分の地区で1位または2位である。「安全性」は岸(34%)、神明(28%)で1位であり、10の地区で3位になっている。 上位項目で最も高い地区は、「ベンチ・日陰」が伊奈平で45%、「四季の花」が本町で47%、「並木道」が中原で32%である。		「歩道」に対する要望は休息しながら楽しく歩く空間を求めているといえる。地区の現状の歩道の整備状況によって要望内容が異なると思われる。安全性が確保された上での修景整備と考える。

設問番号	設問概要	全体回答概要	地区別概要	年代別概要	施策への反映(案)
16	川、水辺の緑をどのようにしたいか？	「親水護岸・水辺の緑化」30%、「水質浄化対策」26%、「水量の安定化」21%、「景観を考慮した修景緑化」11%の順であるが、上位の3項目で大差がないということは、これらの項目が相互に連携して取り組む必要性のあることが要望されている。	上位3項目がほとんどの地区で1位または2位に入っている。 上位3項目を1位とした地区は「親水護岸・水辺の緑化」で中原(44%)など9地区であり、「水質浄化対策」は学園(40%)など5地区、「水量の安定化」は残堀川が流れる三ツ藤(42%)など3地区である。		「川・水辺」に対する要望は「親水護岸・水辺の緑化」「水質浄化対策」「水量の安定化」がほぼ同位で要望されており、市民は川や水辺に対して要望と期待は高い。
17	林、樹木で困ったことは？	「ゴミ」22%、「道路へのはみ出し」17%、「困ったことはない」16%、「病虫害」12%、「落ち葉」12%の順で、清掃、維持管理の苦情が多い。	「ゴミ」が全地区で1位または2位になっており、1位の地区が9地区あり、ほとんどが20%を超えている。 次いで「困ったことはない」で1位とした地区は6地区ありこれも20%をすべての地区で越えている。 「道路へのはみ出し」が2位の地区は7地区ある。		林や樹木で困ったことの設定であるが、「植え込みへのゴミ投棄」が最も高く、マナー向上啓発は当然として、投棄しにくい環境、監視体制の強化など緑化施策の範囲を超えた検討が必要である。
18	減っていく雑木林、屋敷林はどうあるべきか？	「買取」41%、「買取と募金・寄付」37%で、行政だけに求めてはならず、市民の協力意識も高いといえる。「減少も仕方ない」15%で全体としては他の2項目と比べて低い。	「買取」が1位の地区は学園(53%)など9地区、「買取と募金・寄付」が1位の地区は本町(53%)など6地区あり、この2項目とも拮抗しているといえる。 「減少も仕方ない」は神明、岸(26%)など6地区で20%以上を占めており、地区によっては低い比率ではない。	全体的傾向と同じではある。 「買取」よりも「買取と募金・寄付」のほうが高い世代は50歳代(39%)と80歳代(35%)である。 20歳代(43%)、40歳代(41%)は「買取」「買取と募金・寄付」が同率であった。	雑木林や屋敷林の保全対策であるが、行政だけに任せず、市民も「募金や寄付」等の浄財による参加、協力する意欲が高い。これは市民も協力して何とかしたいという表れで、官民一体の保全体制をつくることを検討したい。
19	みどりの普及啓発のために市がすべきことは？	「講習会」29%、「イベント」27%、「自然観察会」25%の順であるが、ほぼ同位といえる。自らが参加し、学び、行動することのできる会やイベントが望まれている。	上位3項目の順位に変動はあるが、全体的傾向としては変わらない。 「自然観察会」で中藤が50%、「講習会」で三ツ木が50%、本町で41%と高い比率を示している。 「映画会・講演会」で10%以上なのは榎だけである。	上位3項目についての指向は変わらない。 20~50歳代は「イベント」、60~70歳代は「講習会」、80歳代「自然観察会」が30%以上で1位である。 「イベント」は70歳代が9%と低い。「自然観察会」は70、80歳代で30%を超えている。	普及啓発のためのソフト面での施策は利用者のニーズにあった、自己啓発的なイベントなど参加意欲を引き出す内容を企画していく必要がある。
20	みどりの普及啓発のためにソフト面以外の取り組みは？	「苗木の無料配布」37%、「樹木の引取り」27%の2項目の比率が高い。以前行っていた無料配布の要望は高いといえる。	上位2項目の順位に変動はあるが、全体的傾向としては変わらない。 「苗木の無料配布」は伊奈平(50%)など12地区で1位になっている。 「樹木の引取り」は三ツ藤(42%)、残堀(34%)の2地区で1位である。		ソフト面以外の施策としては以前行っていた苗木の無料配布の復活を望む声が高い。また、樹木の引き取り制度に高い関心が寄せられており、これらを含めて具体的な施策を展開する必要がある。
21	行政と市民の保全の取り組みは？	「緑化協定」33%、「ボランティア」28%、「委員会などを立ち上げ計画検討」20%の順である。上位2項目で50%以上を占め、市との緑化協定と市民ボランティアが一体となって取り組もうとしている。	「緑化協定」が1位の地区は三ツ木(54%)など11地区あり、三ツ木を含めて内10地区で、30%を超えている。 「ボランティア」が1位の地区は中原(40%)など4地区であるが、各地区で20%を超えており、緑化協定、ボランティアによる緑化管理の充実を求めている。		行政と市民との保全の取り組みは「緑化協定」と「ボランティア」が高く、行政と市民が一体となって緑化保全、緑化管理していく考えは積極的であり、これらを活かした施策展開をしていく必要がある。
22	ボランティアへの協力、参加はできるか？	「できる」61%、「できない」28%であり、積極的な意欲を示している。	全地区で上位の順位は変わらない。 「できる」は岸(71%)、中原(69%)などを含め全地区で50%を超えている。	「できる」と答えた年代は80歳代が若干低いが特定の偏りは見られない。「関心がない」は20歳代11%、30歳代9%、50歳代5%であるが、他の世代は2%に満たない。	市民参加、協力の高い意欲がある。地区別、年代別でも全体的に高い。この意欲を吸い上げる方策としてネットワーク化、リーダーづくり、行政支援等の施策を検討する必要がある。

設問番号	設問概要	全体回答概要	地区別概要	年代別概要	施策への反映(案)
23	協力、参加するとしたら、できることは何か？	「清掃」29%、「花壇管理」18%、「資金協力」11%が上位で、地域に密着した活動に参加意識が高い。	上位3項目の順位に変動はあるが、全体的傾向としては変わらない。 「清掃」は三ツ木を除いた他の13地区で1位を示し17.9%以上ある。 「花壇管理」は14.9%以上の地区が12地区ある。 「資金協力」は三ツ木(18%)が1位を示している。他の地区では順位は高くはないが、8~15%である。	傾向の大きな違いはない。 50歳代で「自然保護」が13%で他の年代(7%以下)より高く、3位である。また、20歳代で「河川保全」が、10%を超えているのに対し他の世代では5.4%以下である。	参加可能内容は地域に密着した内容が示されているが、地域の特色や年代別に対応した組織作りが必要とされる。
24	これからのまちづくりはどうあるべきか？	「積極的保全整備」53%、「保全整備」27%、「開発優先」11%の順で、上位1、2位を合わせた今あるみどりを保全していく姿勢が81%を占める。	上位2項目は若干の順位変動はあるが全体としては同じ傾向である。 「積極的保全整備」は岸(32%)を除いて他の地区で1位(39~67%台)である。 「保全整備」は岸が1位(45%)であるが、他の地区は2位(18~41%台)である。 「開発優先」で高い地区は中藤、三ツ木、三ツ藤で20%内外である。	傾向の大きな違いはない。 「積極的保全整備」は80歳代(43%)を除いて他の世代で50%以上の高さである。	積極的保全と保全整備が高く、郷土のみどりに対する愛着が伺われ、さまざまな施策を検討する上で基本的な指針としていく必要がある。

自由意見記入件数は218件である。回収数604件で36.1%の記入率である。一通の意見の中に複数の内容が書かれてあり、これらの類似内容を整理し分類すると以下のように22項目、310件であった。

自由意見内容	件数	自由意見内容	件数
公園の質的改善要望	60	河川整備、清掃への苦情、提案	9
公園の管理、整備への苦情、提案	28	大きな公園の要望	7
道路(歩道、自転車道含む)の整備、緑化の苦情、提案	28	モノレール、駅設置の推進	7
自然環境の保全、復元要望。緑の重要性、必要性	25	税金、補助金の使い方	7
個別の公園の苦情、提案	18	公園箇所数、量的増加要望	6
緑の苦情	18	個別の公園の賞賛	5
マナーの欠如	14	日産村山跡地や湖南処理場の利用について	5
自然喪失、宅地化等に対する苦情、感想	13	緑地の公的買取、法や条例による確保について	5
市民、ボランティアの参加協力の推進	12	アンケートの目的等に対する疑問	4
緑化施策への要望、提案	12	農地のあり方について	4
まちづくり、歩きやすいまち、街並み、景観等について	10	その他(分類不能)	13
合計			310

平成元年6月に行われた「緑に関する市民意識アンケート調査」でも以下のような類似の設問を行っているものがあり比較評価した。

問9：市内のみどりの少ない場所：今回のアンケート比べ順位の多少の変動はあるが大きく変わったところはない。

問11：市内で自然的景観、緑化環境が優れている場所：選択肢が一部異なっており、一概には言えないが、「狭山丘陵」「公園」の今回と同様に比率は高い。

今回のアンケートで「農耕地」「社寺林」はそれぞれ1.8%、2.8%であったのに対し、平成元年度のアンケートでは比率が10%以上あり、当時と背景が変わってきたといえる。

問22：ボランティアへの協力、参加の可能性：選択肢が一部異なっているが、「参加したい」「している」が58%であり、今回同様、参加意欲が高いことが伺える。